

SCORE

スコア株式会社

〒107-0062

東京都 港区 南青山 6-1-32 南青ハイツ115

03 4362 9536

design@scoreworks.jp

会社概要

スコアは、杉本貴志率いるスーパーポテト出身のデザイナーが立上げたインテリアデザイン事務所です。

人が活力や原動力を得られる「力になる空間」を世界に広げていきます。

会社名 スコア株式会社

設立者 中川 大輔 / 原井 順子

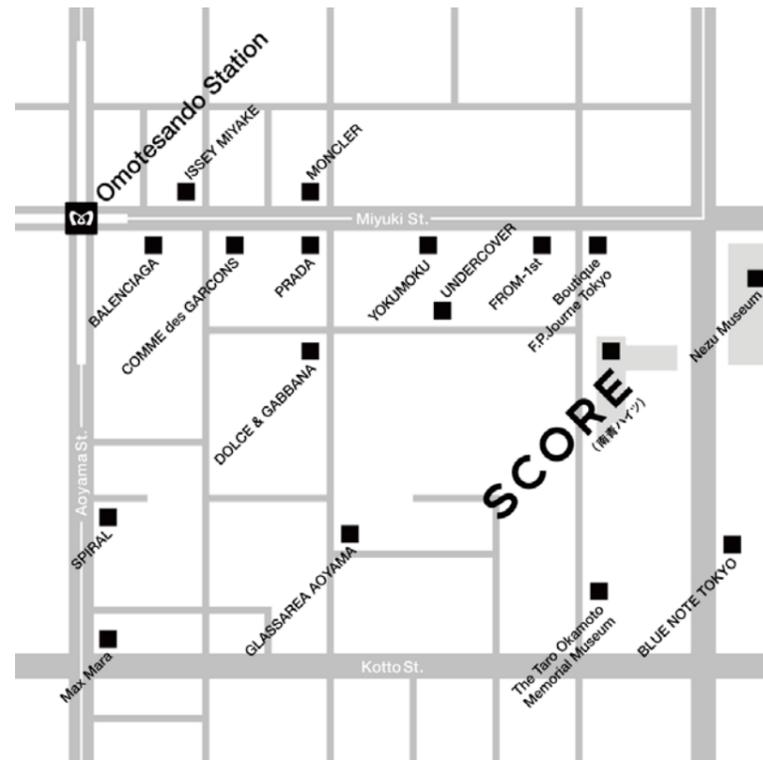
設立 2016年（2020年 スコア株式会社に改組）

事業内容 ホテル、旅館の企画・内装設計・設計監理
レストラン、バーなど飲食店の企画・内装設計・設計監理
特注家具、意匠照明、アートワークなど意匠に関する企画・設計・監理

所在地 〒107-0062
東京都 港区 南青山6-1-32
南青ハイツ115

電話 03 4362 9536

メール design@scoreworks.jp



受賞歴 GOOD DESIGN AWARD 2020 | DUO SCENE 国立
KUKAN DESIGN AWARD 2021 Longlist | 軽井沢プリンスホテル ウェスト
ALL DAY DINING LOUNGE/BAR Primrose

主な案件 2017 Aoichi Office Meeting Room
2018 DUO SCENE SALON 新宿
かついち 大和店
2019 DUO SCENE 豊田
DUO SCENE 国立
淡路島 Villa
2020 軽井沢プリンスホテル ALL DAY DINING LOUNGE/BAR Primrose
軽井沢プリンスホテル ウェスト 中国料理 桃李
2021 軽井沢プリンスホテル ウェスト 中国料理 桃李 プライベートルーム
Korea Café (Gimpo)
Korea Café (Osandae)
2022 Korea Café (Cheongju)
Korea Café (Masanhoewon)
2023 THE “KYOTO” MEISTER COLLECTION
札幌コンドミニウム
2024 逗子レジデンス

誰もが明るい未来を描ける、「力になる空間」を生み出す

Mission スコアの使命

力になる空間を生み出す

スコアが考える「力になる空間」とは、人が活力や原動力を得られる空間です。社会が急速に変化し、将来の予測が困難な時代に、わたしたちは自己課題だけでなく、環境・労働・格差などの社会課題も抱えています。それらの課題に取り組み、個人も社会も成長するには、人の活力や原動力が最も重要であると考え、スコアは「力になる空間」を生み出すことを使命としています。

Vision スコアが目指すもの

誰もが明るい未来を描ける世界を目指す

インテリアデザインで誰もが明るい未来を描ける世界をつくりたい。それは大げさだと思われるかもしれませんが。それでも、スコアは「力になる空間」を生み出し続けることで実現できると信じています。人は活力や原動力があれば、明るい未来を描いて行動することができます。誰もが明るい未来を描ければ、自ずと社会も希望をもって前進することができます。スコアは人と社会が前進するための「力になる空間」を世界に広げていきます。

Value スコアの価値観

スコアは、人の環境・コミュニケーション・気持ち・行動を前向きに変化させる空間を作ります。商業的なような一過性のデザインをよしとせず、見た目だけを重視することを否定し、日常から離れた刺激ある空間体験を提供します。アート、建築、デザインといった垣根を超え、未来を見据えた一貫した構想に基づき、人が活力や原動力を得られる「力になる空間」を生み出します。

Principle スコアの行動指針

- ・よく気づく
- ・学びを未来に活かす
- ・諦めない
- ・表現者であれ

常に視野を広げることを意識し、物事の深層に目を向け、長所によく気づき、文化や歴史を学び、未来に活かす。現実を体験し、野性的感性を磨き、諦めず創造性を追求する。

設立者

スコア

代表取締役 中川 大輔

新潟県生まれ。ICSカレッジオブアーツ卒業後、インテリアデザイン事務所、建築事務所に勤務。ホテル、コンドミニアム、飲食店などのプロジェクトを担当。2016年にスコア設立。

鋭い洞察力でプロジェクトの本質をとらえ、家具やアートワークなど細部にまで情熱を注ぎ、一貫性をもって構想を練り上げる。

光や風、空気、気配といった、かたちでは表す事のできないものこそ身体に強く訴えかける要素が詰まっていると考え、人が持つ「繊細な知覚」と「場と対話する能力」を引き出すような、言語による翻訳を行わずとも感じ取れる印象深い空間づくりに取り組んでいる。



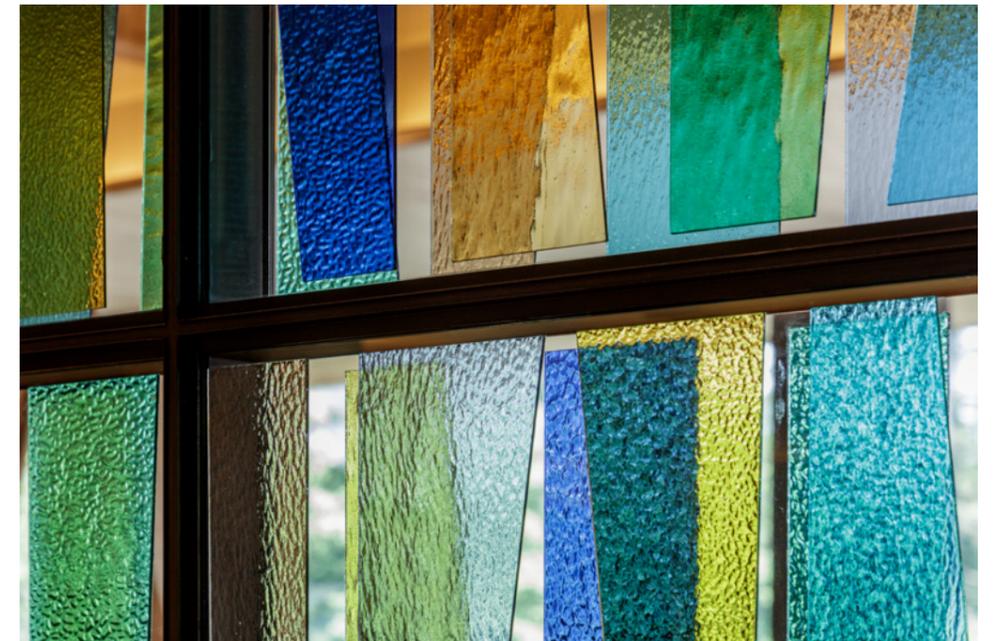
取締役 原井 順子

東京生まれ。武蔵野美術大学卒業後、スーパーポテトに勤務。

PARK HYATT Busan、PARK HYATT Guangzhou、OASIA HOTEL Novena Singapore、Boulevard Vue Singapore、COREDO室町1・2などを担当。その後、有限会社spin offに勤務。

2016年スコア設立。ものの量感、素材特有の表情が与える知覚作用を最大限に活かして、脱日常を演出するダイナミックな空間づくりを得意としている。数々の経験に基づいた独自の注意力は創作工程の隅々まで行き届き、プロジェクトの魅力をより洗練されたものに引き上げている。





軽井沢リゾートの四季をコンセプトにしたオールデイダイニング

軽井沢プリンスホテル ウェストは更なるバリューアップを目指し、大規模リニューアルを果たした。このレストランもその一環で、家族連れなどグループで訪れるゲストのために約300席もの大空間が計画された。

ゲストが軽井沢の豊かな自然や文化、歴史を体感できるよう「軽井沢リゾートの四季」をコンセプトにした。空間を【春】【夏】【秋冬】とテーマ分けし、エリアごとに異なるカラースキームを設定することで、四季の移ろいを表現している。素材は軽井沢開拓時代を想起させるレンガ、信州木材、ガラスなどを取り入れた。大きな窓から優しく差し込む光、刻々と変化する空の色が店内に影響し、自然と一体になれる心地よいリゾートレストランとした。



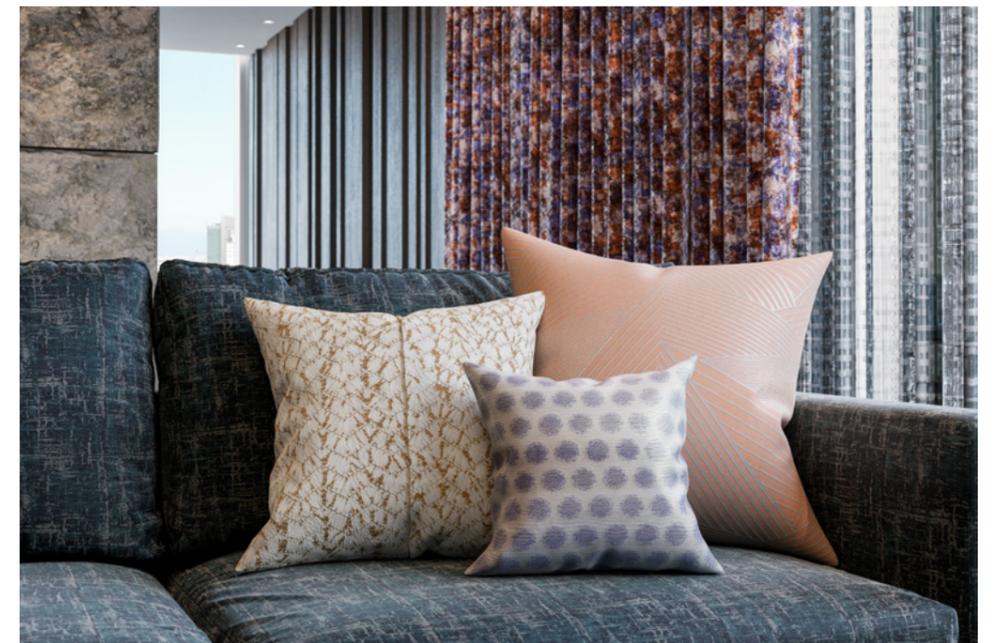


軽井沢の大地をコンセプトにした中国料理レストラン

このレストランは世界的MICEリゾートの確立を目的とした、ホテルの大規模リニューアルの一環として、グローバルなゲストのために計画された。

ゲストが魅力的な軽井沢の風土を親しむことができるよう「軽井沢の大地」をコンセプトにした。軽井沢は活発な活火山の麓に位置し、多様な植物が自生する有数の土地である。ライブキッチンのカウンターは大きな自然石で大地の力強さを表現し、エリアを区切る格子は軽井沢の花々を表現している。壁面を彩る刺繍アートは、江戸時代の日本画から軽井沢に自生する植物を探し、中国の伝統工芸である中国刺繍で制作した。繊細かつ大胆な中国料理と生命力豊かな軽井沢をキーワードに、中国と日本の技を協演させた新しい中国料理レストランとした。





「旅する時間」をコンセプトにしたジャパニーズスイートルーム

伝統工芸である京都の染織技術をインテリアに活かすプロジェクトで、26種類の生地をプロデュースし、その生地を使ったホテルの客室を提案した。

ゲストにとって旅の目的は様々だが、ホテルの滞在時間も重要な旅の体験と考え「旅する時間」をコンセプトにした。城の石垣を連想させる石壁、金属製のトランクの暖炉などが視覚的刺激になり高揚感を与える。

生地は京都の情景をテーマに、千年にわたり継承されてきた京都の染織技術で作られたオリジナルのインテリアファブリックである。京都の自然や文化に敬意を払い、匠の技と遊び心が融合した客室は、新しいジャパニーズスイートルームとなった。



ノーザン・リラクシング・モダンをコンセプトにしたコンドミニアム

このコンドミニアムを訪れる特別なゲストが、札幌の洗練された都会的エッセンスと、北海道の自然美を感じられる心地の良い空間を目指した。

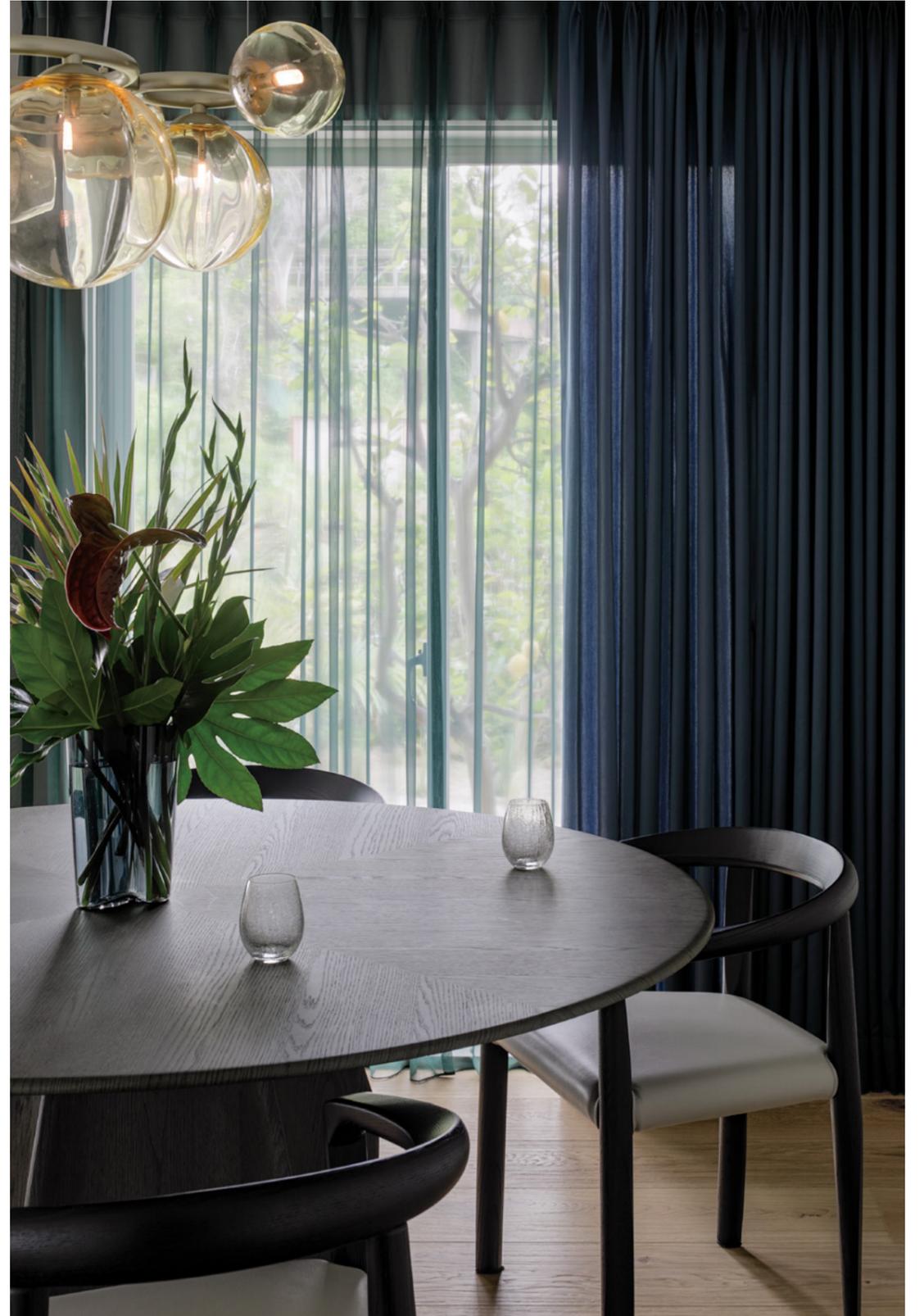
カラースキームは自然界にある色彩から抽出し、海の深い青、エゾ松の鮮やかな緑、新雪の無垢な白、そして狐の柔らかな黄色をアクセントとして取り入れた。直線的でモダンな造形の中に、天然素材や肌触りの良い素材を採用し、上質で温かみのある空間を創出している。オリジナル家具や張地、ライティング、セレクション、アートワークに至るまで徹底的に細部にこだわることで、おもてなしの心を演出し、北海道のアイデンティティが息づく大らかで魅力的なコンドミニアムとした。





コースタルラグジュアリーをコンセプトにした個人邸

海沿いの自然を楽しむライフスタイルに憧れ、都心から移住した夫婦と3人の子供たちのための住宅。リビングでは家族で暖炉を囲みながら、庭から差し込む陽の光、カーテンをなびかせる心地よい海風、鳥のさえずりを感じることができる。ダイニングを照らす吹きガラスの照明は、見る角度によって異なる透け感や光の屈折が空間に豊かな表情を与えている。大きな円形のダイニングテーブルや開放的な形のソファは家族が集いやすい空間を演出している。リゾートをキーワードに、都会の喧噪の中では見過ごしてしまう自然の揺らぎが感じられる大らかな空間で、家族とのコミュニケーションを大切に過ごすことができる住宅を目指した。





武蔵野モダニズムをコンセプトにした集合住宅

自分のライフスタイルを確立しているシニアが、日々の暮らしに楽しみを見出す空間となるよう、デンマーク語のHYGGEと武蔵野の豊かな自然を掛け合わせ「武蔵野モダニズム」という新しいスタイルをコンセプトにした。

HYGGEとは人とのふれあいや、心地良い時間の過ごし方を表している。家の中でも明るく快適に過ごすための工夫をしてきた北欧デザインに学び、ラウンジには木を積極的に取り入れ、アール形状の吹き抜けにすることで、優しく光が包み込む落ち着いた印象とした。入口には武蔵野の地層を表現した左官アートを配置している。様々なスペースに多彩な家具を設置することで、自由な発想で思い思いに過ごすことができる空間となっている。



勝つをコンセプトにしたトンカツ屋

子ども連れや女性客が来店しやすく、トンカツの魅力を感じられるよう「勝つ」をコンセプトにした。日本人は昔から験を担ぐことが好きだ。今でも勝負時には自然とトンカツが食べたくなる。それは老若男女に関わらず、トンカツの魅力の一つになっている。ファサードや壁面に用いている格子柄は、勝負の神様にゆかりのある毘沙門亀甲紋様をモチーフにスコアが考案した「かついち」のオリジナル紋様。格子やブラックスレート、直線的な形状の家具など和のデザイン要素を多用して従来のトンカツ屋の印象を残しながらも、間接照明を効果的に使うことで明るくモダンな店内となっている。



